

仮設住宅等でのディアユニア報告書

2016年5月27日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

*報告期間：2016年4月30日（土）～5月7日（土）（2016年第5次）

◇4月30日（土） a.m. 横浜発 常磐教会でホットスポットファインダー受領 サマリタンハウスへ荷物搬入

◇5月1日（日）仕込み（角田教会）

【1】5月2日（月）南相馬市 牛越第1・第2仮設住宅

南相馬市小高区からの原発避難者の方々 原発から約25kmで、原発に最も近い仮設住宅の一つ。

3回目の訪問（前回は12月29日）自治会長に申し入れて決定

名古屋岩の上教会と合同開催 相馬牧師には、牧師としての挨拶を頼んだ。

提供したのは、DVD（綾小路きみまろライブ第3集）・昼食（豚汁）・カフェ（コーヒーとケーキ）

岩の上教会は、飲料水を各戸に配布した。

支援の結果

参加者数 25名（内男性2名）（支援した側の人数を除く。以後も同じ。）

庖丁研ぎ 13世帯 15本（研いだ後の各戸配達も手伝って頂いた。）

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

原発からの避難について

・津島（*）に逃げた。トイレがなく、穴を掘って板を渡し代用した。

*浪江町津島 当初避難先になった。今は、帰還困難区域で立入が出来ない。2011年5月測定時に地表で132 μ Sv/hあった。ダッシュ村があったところ。

・最初の頃は、これから先どうなるか心配して眠れなかった。

故郷の様子

・家はネズミにかじられる被害が大きい。

・小高には、子供は入れさせない。墓参りの時は嫁が孫とここで留守番している。

・孫は、大阪と新潟にいるが、小高には入れさせない。

放射能・除染について

・コシアブラを採ったが、1,600ベクレルあった。

・タケノコは、200～400あった。茹でると無くなると聞いたが、半分くらいになる。

現在の生活・帰還・将来などについて

・ここでも水道水を飲まない人は多い。

・子供は、小学生が一人いるだけ。

・時々天理教のボランティアが来ている。最初は、草取りをしていた。今は、パターゴルフを一緒にする。楽しい。

・キリスト教も来るが、お祈りするよりこういうの（食事？）がいい。

・帰還するにしても、ハウスクリーニングに半年かかる。業者がない。

・帰る家を直す大工がない。原発事故があって逃げているのに、帰還の期限を切られるのはおかしいと政府に言った。（復興庁の説明会）

・小高の家を壊すことになり、国に頼むと無料になると聞き、申し込んだ。ところが、希望者が多くて昨年12月に打ち切ってしまった。諦めていたが抗議する人が多く再開することになった。東電に申し込むという方法もあるが、全額を持ってはくれない。

・大臣が来ても何しに来たか分からない。

- ・小高では、ゴールデンウィーク中来客が多かったが、仮設は狭くて客を泊めることは出来ない。
- ・福島産の米は、もらってもドライブインに捨てて帰る。

その他のこと

- ・豚汁は、いつも並んで冷めたものを食べていた。熱いのはいい。
- ・(食事で希望のメニューは?) 豚汁はいい。白いご飯と漬物だけでもいい。
- ・豚汁はいい。(多数)
- ・熊本地震を見て、支援したい自分たちの気持ちは(募金などの)形にしないといけないと思う。
- ・原発事故に較べれば、熊本の方は、転々と逃げなくていい。私たちは、未だにこういう状況だと言いたい。



【2】5月3日(火・休) 南相馬市 寺内第1仮設住宅

南相馬市小高区からの原発避難者の方々 2回目の訪問(前回は昨年9月25日)

この仮設に常駐しているNPO「つながっぺ南相馬」の仲介 現在住んでいるのは40戸より少ない。

提供したのは、DVD(綾小路きみまろライブ第3集)・昼食(豚汁)・カフェ(コーヒーとケーキ)
手芸作品用和服服地進呈(名古屋岩の上教会が集め、1日にサマリタンハウスに届けて頂いたもの)

支援の結果

参加者数 11名(内男性4名)

庖丁研ぎ 8世帯 21本(ハサミ 15本) 集会所で手芸をしており、そのハサミの注文が多かった。

豚汁 8リットル ご飯 9カップ

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

原発からの避難について

- ・避難は、原発事故のためとは知らされず、地震後の様子見のために1日くらいだろうと思った。お財布だけで家を出た。そのまま帰ることが出来なくなった。
- ・(津波の救援のために小高で活動していた)自衛隊が、先に逃げたと聞いた。

故郷の様子

- ・築後16年の家は、続いていたローンの支払いがやっと終わった。その家は壊すことにした。足が悪くなったので、小高には帰らないことにしたから。

放射能・除染について

- ・飲んでいる水道の水源のダムは、セシウムが沈んでいると聞く。上澄みを飲めば心配ないと言うけ

れど、気持ちが悪い。

・(フィルターが設置されている集会所に水を汲みに来た方) 中学生の息子が居るので。(2 リットル入りのペットボトルを 12 本自転車に積んで運んでいた。)

現在の生活・帰還・将来などについて

- ・4 畳半 2 間に 3 人で住んでいる。隣が空いたので申し込んだがダメだった。
- ・7 月から帰れるそうだが、小高には生魚を買える店がない。年寄りには困ることだ。
- ・わたしは、戻る気はないので、帰還(避難指示解除)が決まり仮設もなくなると、路頭に迷うことになってしまう。
- ・行政は、小高に 3,000 人は戻したいとのこと(原発事故前は 12,842 人)。そうしないと学校が成り立たないそうだ。
- ・小高の高校は、今年受験者が居なかった。
- ・小高の家は、電気代は取られていないが、解除になれば二重生活になり、負担が増える。そういう人は多いと思う。
- ・解除が決まらなると通う学校が決められない。(小高での学校再開は来年 4 月の予定)
- ・小高では、入院出来る病院がない。レントゲンの設備もない。
- ・バス便もなく病院に行く足がない。車が運転出来る人でないと戻れない。
- ・小高にいた友だちは、戻らず、他所に家を建てた。
- ・仮設で暮らし始めてから 1 年過ぎた頃、夫が亡くなった。小高の家は今リフォームしている。来春息子と一緒に帰る。
- ・役場の調査では、帰る人の方が少ないようだ。どれくらいの人に戻るのか心配している。



【3】5月5日(木・休) 本宮市 恵向仮設住宅

浪江町の方々 2 回目の訪問(前回は昨年 9 月 5 日) 本宮市でも郡山市に近い。

居住者は 80 戸で高齢の方が多い。子供は、以前はいたが、みんな出て行って今はいない。

浪江町役場の仲介

支援の結果

参加者数 24 名 (内男性 7 名)

庖丁研ぎ 12 世帯 13 本

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

原発からの避難について

- ・ここは7ヶ所目の避難先。それでも回数が少ない方だ。
- ・親が避難中に転んで身体障害者になった。

現在の生活・帰還・将来などについて

- ・この仮設は、ログハウスメーカーが建てた。しっかりした建物で、隣家との境の壁も厚い。
- ・今年末までには、半分の人が復興住宅などに出て行って、いなくなるだろう。その前にまた来てもらいたい。

自治会長の平本さんのこと

- ・今回お世話になった平本自治会長は、原発から13kmの所で花屋さんをしていた方。自治会長と共に浪江町会議員もされている。
- ・集会所の周辺や敷地回りを花壇にして、住民の生活空間を草花で和やかにしている。御夫人は、避難生活で体調を崩したこともあったとのこと。
- ・住民に頼りにされているので、皆が出るまではここを去ることが出来ないと語っておられた。前回の報告にも書いたが、自治会長の存在と働きは、仮設住民の生活のしやすさに大きな影響がある。国や自治体は、それに頼るばかりでなく、避難生活の改善に、もっと人やお金を注ぎ込んでほしい。福島県浜通りを行き交うダンプカーの数は、特に4月（新年度）以降に激減した。土木が終わった今、復興は、長期化した避難生活の改善にもっと目を向けて、心と生活の復興に力を注いでもらいたい。
- ・「浪江、わが故郷」という音楽ソフト（曲）があり、浪江町の仮設ではよく皆さんにお見せした。今回もそうしたが、平本さんは、「作ったのはわたしで、作詞もした」とのこと。平本さんもわたしも、驚いた。

私のは、ダウンロードした質が悪いもので、平本さんから圧縮がないオリジナルDVDを頂いた。



【4】5月6日(金) 三春町 旧中郷仮設住宅

田村郡三春町に避難している福島県双葉郡葛尾村(全村避難)の原発被災者の方々 63戸が住んでいる。2回目の訪問(前回は2015年10月26日) 葛尾村役場の仲介 帰途に郡山キリスト教会木田恵嗣牧師(郡山計測所)を尋ね、ホットスポットファインダーを返却した。

支援の結果

参加者数 17名 (内男性3名)

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

放射能・除染について

- ・飯館村の長泥地区（帰還困難区域・住民約 180 人）に実家がある。線量が高くてお線香上げにも行けない。
- ・原発は、「安全」「安心」と言われ続けてきた。原発に連れて行かれて立派な施設を見学させられた。
- ・葛尾村に放射能が吹っ飛んできた。村に交付金（電源三法交付金*）は無かったのに。
*電源三法交付金 2004 年度で 824 億円

現在の生活・帰還・将来などについて

- ・復興住宅に移る人・他所に家を建てた人などあって、仮設の住民は、大分減った。
- ・ここ（仮設）はいい。葛尾村に帰りたいとは思わない。
- ・帰りたい。
- ・村に戻るには半分以下、1/4 くらいではないか。
- ・村には立派な家がある。住めるが息子は帰らないと言う。この仮設の近くに家を用意している。年を取っているの、一人暮らしは無理だ。帰ることを諦めざるを得ない。本当は帰りたいのだが…。（涙を流しながら）
- ・ここは気候もよく、生活に便利だ。医者通いも楽だ。葛尾に帰る気はしない。
- ・病院とか大きな買い物は、浪江町に行っていた。浪江が戻らないと葛尾は帰っても不便だ。
- ・帰っても野菜は作れない。
- ・農業の流れ（継続する環境）が途切れた。
- ・農作物は、それぞれ好む土壌がある。長い間でそういう農地が出来上がった。除染で表土を 5 cm 削って客土（覆土）したら、もうその土壌は無くなってしまう。
- ・堆肥で土質改良するにも葛尾から牛が居なくなったので、手に入らない。
- ・仮にお金を掛けて土地改良したところで、出来た作物は売れないだろう。
- ・田んぼを除染した。幾ら機械で水平にならしても、20 cm くらいは高低差がある。田に水を張るとそれが分かる。稲作はそれでは出来ない。
- ・「帰るのは善い人」「帰らないのは悪い人」というような考えが定着して困っている。

その他のこと

- ・熊本地震のテレビを見ると、涙が止まらない。



◇5月7日(土) 片付け・掃除・補充品確認 a.m.中に横浜へ

【5】ホットスポットファインダーによる線量測定

毎度のことだが、支援では移動距離が多い。車載型のホットスポットファインダーによる移動経路上の連続線量測定を試みた。機材は、郡山の計測所「いのり」所長明石先生にお世話になり、FCC所有のものを借用した。

計測結果は、まだ可視化出来ていないが、検知器を車の中に置き、50 km/hで移動していても、6号線原発

の近くで、 $4\mu\text{Sv}$ を超えた。一般的に、山や林が近くにあると、値は急増する。
機会があれば再度計測したい。

【6】今回の支援のまとめ

- ・出会った方は、関係者を除いて 77 名（内男性 16 名）
- ・庖丁研ぎは、39 世帯 58 本
- ・メニューは、昼食（豚汁）・カフェ・DVD 上映・腹話術・カラオケ・庖丁研ぎ
- ・今回も、チラシ配布やポスター出しは、全て引き受けて頂いた。
- ・当日は、資材搬入から配膳・食器洗い・車への積み込みまで、皆さんに手伝って頂いた。
- ・名古屋岩の上教会は、大量の飲料水（2ℓペットボトル各戸 2 本）を戸別配布した。また、食事にも加わっていただき、食卓のあちこちで会話が弾んでいた。

次回以降の予定

- ◇（2016 年第 6 次）5 月 29 日～6 月 8 日（予定表発行済み）
- ◇（2016 年第 7 次）7 月 16 日頃～7 月 23 日頃 7/19 飯館村自治会 7/21 南相馬社協元気塾
- ◇（2016 年第 8 次）8 月 20 日頃～8 月 27 日頃
- ◇（2016 年第 9 次）9 月 17 日頃～9 月 26 日頃 9/23 飯館村自治会（名古屋岩の上教会と合同開催）